

## OASIS4

### Lesson2 「完了形」 Reading (本冊子 pp.8-9、Interactive Note p.6)

(今回から、日本語訳空所補充と読解のためのヒントを同じプリントにまとめました。ここではかなり詳細に説明を書いています、それでもわからない用語があれば、それは各自で調べましょう。ジーニアス総合英語で調べてもいいですし、webで調べてもいいですよ。)

※波線部に注目して訳しましょう。

#### ① Jennifer was spending the night with her old friend Karen, who lived in a very old house on the outskirts of the city.

ジェニファーは昔からの友達のカレンと共に、( ) いた。( ) は街の郊外のとても古い家に住んでいた。

spend : ~を過ごす outskirts : 郊外

※ , who... → 「コンマ+関係代名詞」は関係代名詞の非制限用法(または継続用法)と呼ばれるものです。継続用法と呼ばれるぐらいなので、この用法は、関係代名詞(ここでは who)によって、2つの文をつなぐ(=文を継続させていますね)用法です。そう理解してください。そうすれば、2つの文を訳するという態度で臨めるはず。そして、「文」とは、必ず、主語(S)+動詞(V)の構造がありますので、ちゃんとそれをキャッチしてくださいね。

2つの文とは?

<1> Jennifer was spending the night with her old friend Karen  
と

<2> , who lived in a very old house on the outskirts of the city.

ですね。え? <2>が文章? 「,」(コンマ)から始まっているし、whoって誰? となりますよね。ここではとりあえず、「,」をandみたいに考えて「そして」と訳し、さらにその後ろを訳してみましょう。つまり

who lived in a very old house on the outskirts of the city  
の部分ですが。

文章だと考えて、主語は? 動詞は?

動詞は lived ですね。では自然に考えて主語は who でしょうね。でも、whoって誰? と。

「コンマ+関係代名詞」が出てきたら、関係代名詞(ここでは who。代名詞だから、何かの名詞の代わりをしているわけですよ?)は、コンマの前にある(ほとんどの場合直前です)名詞を指している(つまり、その名詞の代わりをしているということです。)のです。では、もうその名詞が何かわかりましたね? じゃあ、lived、つまり「住んでいた」のは誰かがわかりますね。訳の空所を補充してみてください。

#### ② After an evening full of talk and laughter with Karen, Jennifer felt very sleepy.

カレンと大いに語り合い、笑い合った宵を過ごした後、ジェニファーは( )。

after~ : ~後

evening : 宵、夕方、晩 full of~ : ~で一杯(つまり、「大いに~した」のように解釈)

laughter : 笑い felt : feel (感じる)の過去形

※after+名詞(のかたまり)をしっかりつかむ。何の後なのか?

※an evening full of~ → full of~の部分が、eveningを後ろから修飾。どんな「宵」なのか、しっかりつかむ。

#### ③ But because it was a bright moonlit night, she went to look out of the window just before she got into bed.

しかし、明るい月明かりの夜だったので、( )直前に窓の外を見に行った。

bright : 明るい moonlit : 月明かりの look out of the window : 窓から外を見る

just before ~ : ~する直前 get into ~ : ~に入る

※just before 主語(S)+動詞(V)の構造に注意。しっかり、beforeの後に主語と動詞を読み取って。「誰が(S)」「どうした(V)」のか、しっかりつかむ

④As the clock was striking midnight, she heard the sound of horses' hooves and carriage wheels coming down the dark lane.

時計が真夜中を打っていたとき、彼女は暗い道を（ ）を聞いた。

as~ : ~時 strike : ~を打つ midnight : 真夜中 heard : hear ( ~を聞く ) の過去形  
sound : 音 horse : 馬 hooves : hoof ( ひづめ ) の複数形 carriage : 馬車 wheels : 車輪  
lane : 細道、小道 come down : やってくる

※as 主語(S)+動詞(V)→S が V する時

ここでの as は接続詞で、後ろに主語+動詞の構造が来ます。as には多くの訳し方がありますが、今回は「~する時」という訳で。誰 (S) がどうする (V) のかしっかりつかんで。

※hear ~ doing → ~が do しているのを聞く (太字部分)

「~」にあたる部分をしっかりとつかんでください。

そのためには、and がつなぐ部分も正確につかむ (斜体字部分)

⑤She was horrified to see that it was not a carriage, but a big black hearse driven by a coachman, whose face was white as death.

彼女は、それが馬車ではなくて ( ) を知ってぞっとした。そして ( ) は死神のように青ざめていた。

be horrified to do : do してぞっとする hearse: 霊柩車 driven : drive ( ~を運転する ) 過去分詞形  
coachman : 御者 white : 青白い as~ : ~のように death : 死神

※この see は「~を知る」と訳すとうまくいきます。see には、「見る」以外にもいくつか訳があります。訳し分けられると便利です。例) わかる、理解する、知る

※that 節 (太字部分) の中には、主語(S)+動詞(V)の構造が必ずあることを確認  
何 (誰) がどう (何を) するかをしっかりと訳す → 最後に「~こと」をつける

今回 that 節の中が長いです。しっかりと見ていきましょう

まず、not A but B (「A ではなく B」) の構造があります。A も B も名詞 (のかたまり) です。A と B にあたる部分をしっかりとつかむこと。A は carriage ですね。では、B は? ここが長いのでしっかりと。

長いということは、名詞にいろいろ修飾語がついているということです。but の後ろを見てみましょう。

a big black hearse driven by a coachman, whose face was white as death

まず、単語の意味を参考に前から訳していきましょう。「大きな黒い…」

立ち止まったところがポイントです。たぶん、「大きな黒い霊柩車」で止まったと思いますよ。

では、その後ろの部分は? そこから、さらに修飾語部分が続いているということです。つまり、driven by a coachman は直前にある名詞 hearse (霊柩車) を修飾しています。

他動詞の過去分詞は「~られた」と受け身で訳します。つまり、どんな霊柩車でしょうか?

そのあと、また、whose…、「コンマ+関係代名詞」が出てきましたね! 理屈は①と同じです。違うのは、①では who だったのが、ここでは whose になっているという点です。ちょっと自分で考えてみてください。who は主格関係代名詞、whose は所有格関係代名詞でした。ちがいは、主格か、所有格か、ということだけです。確認しておく、「主格」というのは、「主語になる形」ということ、「所有格」というのは、「所有格になる形」ということ。わかりにくければ、単純に訳で理解しましょう。

主格 → 「○○は」と訳す

所有格 → 「○○の」と訳す

はい。では、今回の whose はどの名詞の代わりをしている関係代名詞ですか。探し方はもう知っていますね。忘れたのなら①を読み返して。

答えはもちろん、関係代名詞の直前にある名詞です。つまり、coachman です。ではそれを、上の「○○の」の○○に入れて訳せば、うまくいきますよ。訳し方がまだわからない人は、もう一度①を読んでください。「コンマ+関係代名詞」は 2 つの文章をつないでいることを忘れずに。

<1> it was not a carriage, but a big black hearse driven by a coachman

<2>, whose face was white as death

⑥ From the sleeves of his black coat there appeared the hands of a skeleton.

彼の黒いコートの袖口からは( )。

sleeve : 袖 coat : コート appear : 現れる skeleton : 骸骨

※from がかかる範囲を正確につかむ

※there appeared... → ◆ There is a cat in the room. という文はほとんどの人が訳せるとおもいます。

「部屋の中に猫がいる」

ですね。

there appeared は、◆の文の is が appeared に変わっただけだと理解しましょう。ですから、「いる」を「現れた」という訳に変えるだけでいいんですよ。ポイントは、この there is~ という文章では、何が主語なのかということです。訳から見ても明らかに主語は「猫=cat」ですね。同じように考えると、「何」が「現れた」のかもわかりますね。どこに現れたのか(◆の文では in the room にあたる部分)、その場所の部分がここでは、文頭に書かれています。強調したい時などにこういうふうに順番を変えることがあります。

⑦ The hearse was full of people.

その霊柩車は人でいっぱいであった

be full of~ : ~でいっぱいである

⑧ It stopped directly beneath Jennifer's window.

それはジェニファーの窓の真下で止まった。

directly : ちょうど、正に beneath~ : ~の下に

⑨ The coachman looked up and shouted to her, "There's room for one more!"

その御者は見上げて、彼女に向かって「( )」と叫んだ。

look up : 見上げる shout : 叫ぶ room : 余地、スペース

⑩ In terror, she drew the curtains over the windows, ran to bed and covered her head with the bedclothes.

ぞっとして彼女は( ),  
ベッドへ走って行って、( )。

in terror : ぞっとして drew : draw (～を引く) の過去形 curtain : カーテン  
ran : run (走る) の過去形 cover : ～を覆う with~ : ～で bedclothes : 布

※and がつなぐ部分も正確につかむ(斜体字部分) 特に太字部分に注目して。ここでは、3つの部分をつないでいますよ。A, B and C の形。

⑪ Next morning, Jennifer thought it had <probably> been just a bad dream and so she didn't say anything to Karen.

翌朝、ジェニファーは( )  
(だから) カレンには何も言わなかった。

thought : think の過去形 probably : たぶん just a bad dream : ただの悪い夢 so : だから

※and がつなぐ部分を正確につかむ(斜体字部分)

※thought (that)... → ...だと思った

think の後ろには正式には that 節が来ます。「...と思った」の「思った」内容を that 節で表すわけです。ですから、ここでも thought の後ろに that 節があるのですが、この that を省略することがほとんどで、ここでも書かれていません。でも、that 節の仕組みはそのままですから、ちゃんと主語(S)+動詞(V)の構造を探してください。(太字部分)

では、thought の後ろの、ジェニファーが「思った」内容の部分を見ていきましょう。

it had <probably> been just a bad dream

<probably>は副詞で、文中に挿入されているだけです。日本語訳のどこか適当なところに「たぶん」と入れたらいいですよ。では、それ以外の部分を。

had been は過去完了形ですね。過去完了という時制は、「had+過去分詞形」で表しましたね。been は be 動詞(is,are など)の過去分詞形です。訳し方としては、「～だった」と訳すなど、過去形の訳とあまり変わりません。

OASIS4 の Lesson1 で、過去完了形の説明を載せましたが、覚えていますか？もう一度書いておきますね。

**過去完了形 (had+過去分詞形)** は、ある過去の時点（過去形動詞）よりもそれが前に起こったことを表す時に使う時制です。この場合、ある過去の時点というのは thought（過去形）です。それよりも前に had been just a bad dream（過去完了形）だったということです。つまり、「思った」時は「翌朝」でした。でも、it had <probably> been just a bad dream 「それはただの悪い夢だった」のはいつでしたか。そもそも it は何を指していますか？昨夜、ジェニファー何が起こりましたか？この it は、何か特定の単語を指しているのではなく、その出来事全体を指していますね。ですから、「それはただの悪い夢だった」のは、昨夜のことです。「翌朝」と「昨夜」、どちらが先か、もうわかりますね。

⑫ After breakfast, they went shopping in a large department store and she soon forgot the horrors of the night before.

朝食後、彼女たちはある大きなデパートへ買い物に行き、彼女はすぐに（ ）を忘れてしまった。

department store : デパート forgot : forget (～を忘れる) の過去形 horror : おそろしいこと  
the night before : その前の夜

⑬ They had lunch in the top-floor restaurant.

彼女たちは最上階のレストランで昼食をとった。

⑭ When it was time for them to go, they paid their bill and walked to the elevator to go down to the ground floor.

席を立つ時間が来て、彼女たちは勘定を支払い、（ ）エレベーターの所へ歩いて行った。

paid : pay (～を払う) bill : 勘定 (書)、請求 (書) elevator : エレベーター  
go down : 降りる the ground floor : 1階 it is time for ~ to do : ~が do する時間だ

※when の後ろには「主語(S)+動詞(V)」の構造があります。

※and がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分) 特に太字部分に注目して。

※to が全部で 4 つも出てきていますが、仲間分けできますか？

to が出てきたら、可能性は以下の 2 つです。

<1> 前置詞の to (～へ、～にと訳す。to の後ろは名詞)

<2> to 不定詞 (to do の形。to の後ろに動詞の原形がある)

また、<2>の場合、用法が 3 つありましたね。名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法です。詳しくは自分で調べて。ちなみに、最初の to go は形容詞的用法です。

では、3 つ目の to go (down) は？

これは、目的を表す副詞的用法ですね。「do するために」と訳します。

⑮ When the elevator arrived, it was very crowded. Karen said, "Come on, we'll squeeze in somehow."

エレベーターが来たが、とても（ ）。「おいでよ。なんとか乗れるわよ」とカレンが言った。

be crowded : 混んでいる squeeze in : 押し込むように入る somehow : なんとかして

⑯ But just before they stepped in, the operator turned his face and said, "Room for one more!"

しかし、( )直前に係員が振り向いて、「( )」と言った。

**just before**…：…する直前 **step in**～：～に乗り込む **operator**：係員 **turn one's face**：顔を向ける

※**just before** 主語(S)+動詞(V)→「誰が(S)」「どうした(V)」のか、しっかりつかむ

③にも同じ構造の文があったので、余裕があれば振り返ってください。

※**and**がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分) 特に太字部分に注目して。

⑰ **To Jennifer's horror she saw that it was the face of the coachman on the hearse.**

ジェニファーがぞっとしたことには、( )とわかった。

**to one's horror**：～がぞっとしたことには **saw**：see の過去形

**coachman**：御者 **hearse**：霊柩車

※**see that** 節→ここの **see** も、「見る」では意味が通らないので、他の訳を。⑤参照

※**that** 節 (太字部分) の中には、主語(S)+動詞(V)の構造が必ずあることを確認

何(誰)がどう(何を)するかをしっかりと訳す → 最後に「～こと」をつける

⑱ **She pulled Karen back and said, "No — let's walk down the stairs."**

彼女はカレンを引き戻して「( )。( )」と言った。

**pull ~ back**：～を引き戻す **walk down ~**：～を降りる **stairs**：階段

※**and**がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分) 特に太字部分に注目して。

⑲ **The elevator started to go down, and suddenly the girls heard the most terrible crash — the cable had snapped, and the elevator had plunged to the bottom, killing everyone in it.**

エレベーターは降り始めた。すると突然彼女たちはとてつもなく恐ろしい衝突音を聞いた。

ケーブルが切れたのだった。

エレベーターは底まで落ちて行き、( )。

**go down**：降りる **suddenly**：突然 **the most**～：もっとも～な **terrible**：恐ろしい **crash**：衝撃音

**cable**：ケーブル **snap**：プツンと切れる **plunge to ~**：～に突っ込む、急に下がる **bottom**：底

※**started**(過去形)、**heard**(過去形)、**had snapped**(過去完了形)、**had plunged**(過去完了形)の動詞で表される 4 つの出来事の時間関係を確認してみてください。⑪で説明したことを参考に。

※**,killing**…→コンマ+doing(現在分詞)

これは分詞構文です。分詞構文についてはまた詳しく説明しますので、今気になる人はジーニアス総合英語で調べてみてください。とりあえず、文をつないでいく感じで、「そして、…した」と訳していきます。ちょっと「コンマ+関係代名詞」と似ていますよね。まあ、文をつないでいく方法はいろいろありますからね。「誰が」「どうした」というのをしっかりつかむべき点も同じです。ここでは

<1> **The elevator had plunged to the bottom**

<2> **, killing everyone in it**

の 2 つがあって、<2>は **and killed everyone in it**

と書き換えられます。つまり、

**The elevator had plunged to the bottom and killed everyone in it.**

ということです。これで訳せますよね？誰(何)が **kill** (殺した) のかも、もうわかりますね。

※**everyone in it**→**in it** が **everyone** を後ろから修飾しています。「その中 (の) (にいた) みんな」**it** が何かはわかりますね。

⑳ **So if ever anyone says to you, "There's room for one more," don't accept the invitation.**

だから、もしだれかがあなたに「もう一人乗れますよ」と言っても、( )。

**if ever**…：もし…だとしても **anyone**：誰か **accept**：～を受け入れる **invitation**：誘い、招待